

ハブ抗毒素(血清)は外来種とハブとの雑種の毒を中和します

沖縄本島では、過去に島外から持ち込まれ逃げ出したサキシマハブやタイワンハブが、一部地域で定着し増えています。これらの外来種は、定着に伴い本島内で数多く捕獲されるようになり、さらに外来種と在来ハブが交配した雑種も現れ、これまでに数匹捕獲されています。

このような雑種が初めて確認されてから17年以上経過していますが、幸いにも現在までに人が咬まれる事故は発生していません。ちまたでは雑種の毒には従来のハブ抗毒素(血清)が効かないのでは、と不安視する声も聞かれますが、当研究所が平成6年度と平成14年度におこなった動物を使った中和実験により、ハブ抗毒素(血清)が雑種の毒を良好に抑えることが分かっています。

図1はその中和実験の結果です。図の縦軸は、ハブ抗毒素(血清)0.1mlが中和(毒の出血作用を抑

える)できる、各ヘビ毒の量を表しており、棒グラフが高いほどハブ抗毒素(血清)の効果が高い事を示します。このグラフから、ハブ抗毒素(血清)が雑種の毒をハブ毒同様に抑えていることが分かります。

このようにハブ抗毒素(血清)が雑種の毒を中和できるのは、3種(ハブ・サキシマハブ・タイワンハブ)の毒の種類や成分が似ているためだと考えられます。ハブ抗毒素(血清)はハブと異なる毒を持つコブラ類には効果がありませんが、サキシマハブやタイワンハブに咬まれた際にも使用され、治療効果があることが報告されています。しかし、たとえハブ抗毒素(血清)が雑種に対して有効でも、咬まれないに越したことはありません。普段から咬まれないよう注意しましょう。

【衛生科学班】

マイクログラム

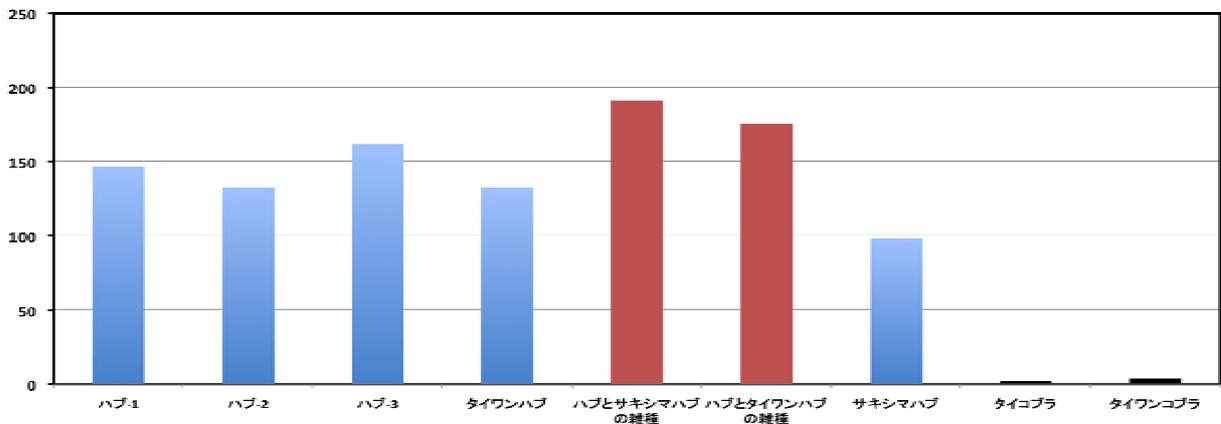


図1. ハブ抗毒素(血清)0.1mlが中和できる各ヘビ毒の量



写真1. ハブとサキシマハブの雑種



写真2. ハブとタイワンハブの雑種